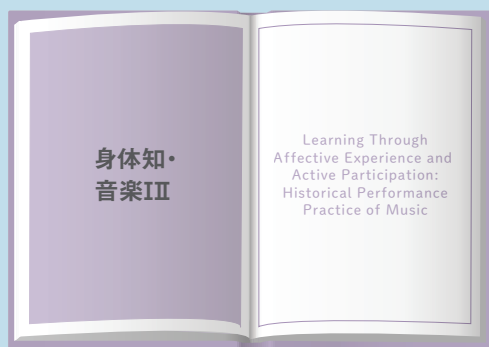
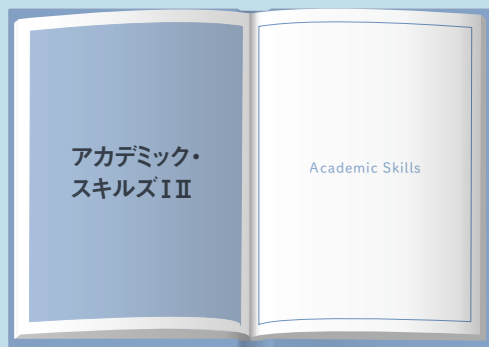




教養研究センター設置科目



いま、最先端の学問は「教養」かもしれない。

2025年度ガイダンス

4/2 Wed 13:00~
14:30

日吉キャンパス独立館 DB203

「教養」のすゝめ

大学は専門教育と教養教育の両輪で成り立ちます。

なぜなら、複雑な現実社会の中で専門的知識はそのまま役立つものではないからです。

専門的知識は応用しないと、現実には、はまりません。

応用するために必要なもの。

それが教養です。

さらに専門教育は限られた一分野に徹するから専門。

世の中を生きていくためには専門だけでは偏ります。

そこでも教養は不可欠なのです。

福澤諭吉先生も言っています。

「決して字を読むことのみを勧むるに非ず」

『学問のすゝめ』の中の言葉です。書齋で狭い学問をしているだけでは駄目だということです。

社会的・実践的に、からだを動かして学ぶことまで含めた、広い学問の必要性を述べた言葉です。

福澤先生による「教養のすゝめ」と解してよいでしょう。

教養研究センターは慶應義塾における教養教育の力強い担い手です。

様々な授業を設置して、学部のしきりにとらわれない、教養教育の実践に取り組んでいます。

ぜひ、ガイダンスで情報を得て、履修の参考にしていただければと思います。

Guidance

2025年度教養研究センター設置科目ガイダンス

日時 2025年4月2日(水) 13:00~14:30

場所 日吉キャンパス独立館 DB203

教養研究センターの設置科目や幅広い活動について紹介します。
教養研究センターの科目、活動に少しでも興味をもったら是非出席してください。

担当教員からのメッセージ

身体知

Learning Through Affective Experience and Active Participation

言葉と体を通して 全く新しい自分に出会ってみよう

普段皆さんが読んでいる物語や小説。それを声に出して読んでみたら・・・他者と一緒に議論してみたら・・・絵や歌、体を使って表現してみたら・・・。ふだん私たちが「学び」と思っていることを全く異なる方法で「体感」してみる授業です。

法学部教授 横山千晶

日吉学

Hiyoshi-ology

ここでしか学べません 過去から未来を読み解く体験型教育プログラム

「日吉学」の特徴は、他では考えられない顔ぶれと手法と素材が合体すること。多様な受講生と共に探検・体感し、テーブルを囲み、新鮮な発想をぶつけ合い、多彩な教授陣と共に考えます。教材には塾生なら必見の歴史的宝物が続々登場!

福澤研究センター准教授 都倉武之

エンターテインメントビジネス論

Entertainment Business Management

エンターテインメントビジネスについて理論と実務の 双方から学際的・分野横断的にアプローチします

アニメやゲームを始めとしたエンターテインメントビジネスは、法学・経済学・商学・文学・理工学等多くの学問分野を横断する学際的分野です。エンターテインメントビジネス関連分野の第一線の研究者・最前線で活躍する実務家による講義を通じて、エンターテインメントビジネス、とりわけアニメやゲームに係るIPの開発・展開に関する方法論を体系的に教授します。

経済学部准教授 三原龍太郎

アカデミック・スキルズII

Academic Skills

レポートと論文の違い プレゼンテーションの仕方を基本から学びます

論文の書き方、プレゼンテーションの仕方を徹底指導。減多にない授業です。大学の授業ではレポートを書く機会が増えます。3、4年生になると論文の執筆を求められることもあるでしょう。では、レポートと論文はどう違うのか。さらに内容を口頭で発表するときはどうするか。アカデミック・スキルズはそのスキルをみなさんに伝授します。

法学部教授 片山杜秀

身体知・音楽II

Learning Through Affective Experience and Active Participation: Historical Performance Practice of Music

歴史的音楽(器楽・声楽)を 当時の演奏習慣に基づき演奏していきます

音楽は、身体を介し表現され、歴史の中で常に、人間の知的な活動と連携してきました。この授業では、音楽を身体で表現することを通じて、歴史・文化の中の人間の生を体験し、芸術に秘められた人間の生を、文学・歴史・思想等、多角的視点から見つめ直すことを目的としています。

経済学部教授 石井明

ゲーム学

Game studies

ビデオゲームが提起する諸問題について アカデミックな立場から考察をおこないます

普段は遊びに過ぎないビデオゲームも、巨視的なスケールで見れば今日、多くの産業、文化、技術分野において中心的な位置を占め、また、さまざまな問題を提起しています。ビデオゲームの周辺で現在起こっていることを知り、ゲームに関する諸問題についてアカデミックな考察をしてみませんか?

経済学部教授 新島進

金融リテラシー入門

Introduction to Financial Literacy

就職活動の企業選定にも役立ち、働き方の 選択肢を広げるマネーリテラシーを身につけます。

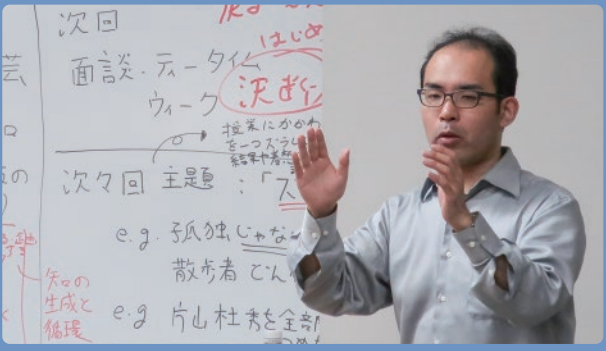
人生100年が多くの人にとって現実化しつつある昨今、知らないがために損をしていることも多い様々なマネーリテラシーにまつわる情報を知り、自身の興味に応じて自ら調べ動けるようにしましょう。マネーリテラシーはどのような生き方をしたいのか、という問いにも直結します。そのための手段として基礎となる金融知識・情報以外に、実際にどのような資産形成の手段があるかを総合的に学びます。

法学部教授 片山杜秀 医学部助教 寺沢和洋

敬称略。所属・職位は2025年1月現在

アカデミック・スキルズⅡ

協生の時代の知を築く



大学の授業では、自ら調べ、書き、発表する能力が求められます。レポートを書く。論文を書く。レポートや論文の内容について、プレゼンテーションする。学年が上がれば上がるほど、そういうことができるか否かが、評価の分かれ道になってゆきます。少人数の授業では特にそうです。

ところが大学では長いあいだ、どうすれば調べて書いて発表できるようになるかについて教えてきませんでした。大学の授業は、経済学でも政治学でも法学でも文学でも物理学でも化学でも、講座名にかなう専門的内容をきちんと教えます。けれどたとえば、学期末に提出の求められるレポートや論文の作り方のことになると、たいていは自助努力に任せられます。

もちろん、高校までの経験や大学に入ってからの見様見真似で、いきなり出来てしまう人はいます。しかし、かなり多くの学生が戸惑い躓いてしまうのもまた事実なのです。

そこで慶應義塾大学に生まれた授業が、教養研究センターの開講するアカデミック・スキルズです。この授業は、レポートや論文を執筆するときの調べ方、書き方、そして発表の仕方について、そのスキルを学ぶことを主眼とします。なるべく早いうちにそういう仕方を学ぶおくことは、どのような学問を専攻するにせよ、必ず役に立ちます。近年では多くの大学で同内容の授業が増えてきていますが、慶應のアカデミック・スキルズはこの道の老舗です。

といっても、調べ方、書き方、話し方に、絶対的に決まったスキルはありません。マニュアル本のようにはゆきません。最後は人それぞれです。とはいえ、多くの場合通用する、能率的で効果的なやり方というものはあるのです。そのことを少人数形式でじっくり学んでみませんか。

※授業の性質上、春学期・秋学期を通しての履修を推奨します。

授業の特長

学部共通科目・少人数制・複数教員制
さまざまな学部の学生が少人数で一緒に学びます。1クラスに専門分野の相異なる複数の教員がつかます。

コンペティションの開催と論文集の作成
授業のまとめとして、各クラスから優秀な論文とプレゼンターを選出し、コンペティション開催を予定しています。また、履修者の提出論文を掲載する論文集も作成されます。



佐藤望(編著)・湯川武・横山千晶・近藤明彦
「アカデミック・スキルズ
大学生のための知的技法入門 第3版」
(慶應義塾大学出版会、2023)

授業紹介

論文作成とプレゼンテーションの仕方を系統立てて学んでゆきます。個人で完成し、内容についてのプレゼンテーションを行います。論文のテーマの選択については自主性が尊重されます。

2025年度 アカデミック・スキルズⅡ 講師紹介

クラス・学期・時限	担当教員
木曜クラス (春・秋) 2限	若澤佑典 (文学部助教) 片山杜秀 (法学部教授)
木曜クラス (春・秋) 5限	山口早苗 (理工学部専任講師) 小林拓也 (理工学部専任講師) 縣由衣子 (教養研究センター非常勤講師)
金曜クラス (春・秋) 5限	原大地 (商学部教授) 中川真知子 (経済学部准教授) 高山花子 (2025年度 教養研究センター非常勤講師) (予定)

敬称略。所属・職位は2025年1月現在

シラバス(春学期)の基本イメージ例

(実際の授業は各担当教員の創意工夫に基づき行います)

●グループ論文を作成する場合

回	授業内容
1	履修者を選考します
2	グループ分けとみんなの自己紹介をします ミニ講義「問題意識の見つけ方」
3	小論文を書いてみよう ミニ講義「論文とは何か」
4	グループ論文のテーマについて議論しよう ミニ講義「グループ論文の作り方」
5	メディアセンターで資料の探し方を学ぼう
6	そろそろグループ論文のテーマを決めよう
7	グループ論文の章立てを考えよう ミニ講義「参考文献表の作り方」
8	各章の概要を決めよう ミニ講義「プレゼンテーションの仕方」
9	グループ論文の骨子をみんなにプレゼンテーションしよう
10~11	論文の作成と指導に集中します
12~13	グループ論文の深まった内容を改めてプレゼンテーションしよう
14	グループ論文を最終完成します

論文コンペティション入賞作 (過去の例より)

- 文学部1年 アフリカに興味を持つ学生の意識調査と考察
- 経済学部2年 長期的視点から捉える日本の人口減少社会

プレゼンテーション・コンペティション入賞作 (過去の例より)

- 理工学部1年 小学校の宿題で成績と学習意欲の向上を両立することは可能か 一反復学習と自学の比較を通してー
- 経済学部2年 「初音ミク」とは何か ー他コンテンツとの比較からその本質を見出すー

学生の声(2022年度受講生)

「実学」としてのアカデミック・スキルズ。

みなさん、論文と聞いてどのようなものを思い浮かべますか。卒業する時に書くもの、そんなイメージでしょうか。しかし、アカデミック・スキルズでは論文を1、2年生のうちから執筆することができます。一方、学ぶことができるのは論文の書き方だけではありません。論文を書く中で「考える力」を身につけることができます。また、社会人、ひいては国際人としての振る舞い、あるいはコミュニケーション能力をも磨くことができます。論文の書き方というアカデミックな学びをしつつ、社会に出てから必要な言わば「実学」をも学べるアカデミック・スキルズ。自信を持っておすすめできる授業です。

文学部2年

専門分野を学ぶ前に、自らテーマを決めて論文を書くという経験が積めると聞き、受講を決めました。

通常の大学の授業では自分の書いたレポートや発表に対して丁寧なフィードバックを貰える機会は少ないのですが、アカデミック・スキルズでは教授の方々からの細かな指導を受けたり他の履修者と比較したりする貴重な機会があり、論文作成の基礎となる論理的な思考力や文献の使用法、学術的な発表の方法を学ぶことができました。また、意欲的な講師の方や仲間たちとの交流は楽しく、論文を書き終えた際の達成感はひとしおで、今後の自信にもつながったと思います。

理工学部2年

身体知

創造的コミュニケーションと言語力



私たちはもちろん体を通して生きている。それは当然のことですが、あらためてこの「身体」に注目した全く新しい学びの在り方を、自分たちで探っていくワークショップ形式の授業です。鑑賞する対象の芸術作品を他者とともに議論したり、身体ワークショップを通して解釈したりしてみると、どんな新しいことが見えてくるだろう。そこから自分たち自身が創作者になってみたらどうだろう。創作したものを他者はどう見るだろう。そんな経験をワークショップを通して、異なる世代とともに味わうことが「身体知」授業の醍醐味です。夏季休暇期間中の6日間を使って、集中的に通信教育課程の学生と通学生がともに活動するものこのクラスの特徴。「学び」、「仲間」との新しい出会いのみならず、新しい自分との出会いが待っています。

2024年度の題材をとったジョー・ミノの短編集



授業の特長

全く新しい学びの体験

座学ではない、頭も身体も心も総動員する授業です。

異なる世代が集う授業

通信教育課程の学生と通学生とが世代を超えて、学ぶ場を共有します。

夏期集中コース

夏季休暇期間中の6日間を使った集中コースです。



授業紹介

言葉に命を吹き込んでみる。



通学課程と通信教育課程の学生がともに学ぶ場です。いくつかの短編小説を「読む」・「声に出す」・「作品について語る」ことを通して、言葉が織りなす様々な意味を味わってみましょう。自分がそこから読み解くことが他者とどう異なるのか。声というものを通して文学作品を読むと、どう自分の解釈が異なってくるのか。直に体感してみてください。その後、様々な身体ワークショップを取り混ぜながら、創作へと向かいます。他者の話を「聴く」・「からだで表現する」・「言葉で表現する」といういくつかの段階を経て、そこでの体験をもとに、言語や身体を使った新しい創作表現へとつなげます。性別や年代が異なるクラス環境だからこそ可能になる授業内容を展開していきたいと思っています。最終的に成果を一般に公開するミニ公演を開催し、皆さんの作品を他者とシェアします。

近年のテーマ

2023年度 「変身」

パンデミックとの共存の可能性が見えてきたもつつかの間、世界は新たな静いの時代に突入しました。2023年度は、他者との衝突の中で自分の、あるいは知っていたはずの相手の新たな側面に気がついたり、共存の道を新たに探ったりというこの状況を「変身」というテーマに託してみました。取り上げたのは、マレーネ・ボーンの『捧げもの』、ジョー・ミノの『囁く高麗鶯だったあの子』、そして夏目漱石の『夢十夜』から「第一夜」、『永日小品』から「蛇」の4つの短編です。象徴の中に隠された、ときに静かなときにうねるような感情や、言葉の描き出す力強い「絵」を意識しつつ、特別講師としてお迎えしたダンサーで演出家のアオキ裕さんの指導のもと、言葉を力強い身体表現に変えていきました。こうして出来上がった作品「蛇」は、10月10日に来往舎でダンス公演として発表されました。

2024年度 「再会」

2024年は分断と技術革新が身近になった年です。不安定な政情の中で、意見の多様性が浮き彫りになり、AIなどの技術革新も身近になりました。知っていた物事や他者の中に新たな姿を発見したり、技術や情報の波の中に押し流されていく自分をもう一度見つめ直したりと、さまざまな「再会」を経験する年でもありました。この「再会」をテーマに取り上げたのは、ヴィクター・ラヴアルの『Recognition』、マイク・フォックスの『帰巢本能』、そして2023年に引き続きジョー・ミノの『囁く高麗鶯だったあの子』の3つの短編です。今年もみんなで様々な意見を出し合い、特別講師としてお迎えしたダンサーで演出家のアオキ裕さんの指導のもと、声と身体を使った新たな表現を通してこれらの作品に出会い直す経験を味わいました。最終発表会には、アオキさんの率いるダンスカンパニー「新人Hソケリッサ!」のメンバーも加わり、力強いパフォーマンスを展開することができました。

学生の声(2024年度受講生)

世界の見え方が変わります。

1週間で、あなたが見ている世界がひっくり返ってしまうかもしれない。この授業は、その可能性を秘めています。この授業を経て、家族、友人、そしてあなた自身との関わり方が、大きく変わるかもしれません。あなたがあなたとして存在してきた約20年の、新しい意味を見つけてみませんか？

法学部4年

新たな世界に酔いしれる夏。

自分とは何者なのか。自分が持っている身体のリズムを知るところから始めてみませんか。自分も知らなかった体内から湧き起こる動きにきっとあなたも驚くはず。そして空間を共有している他者と身体のリズムを交差させ、それが言葉に留まらないコミュニケーションのカタチだと気づくはず。新たな世界に酔いしれる夏にしてみてください！

文学部1年

自由な発想で挑戦してください！

この授業を履修しようと考えている人には、ぜひ自由な発想で挑戦してほしいと思います。この授業では決まりや縛りがほとんどなく、自分のやりたいことや表現したいことを存分に試すことができる環境が整っています。自分のクリエイティブな側面を最大限に引き出したい人には、まさに最適な場所です。また、他の参加者からの刺激を受け、自分の表現の幅が広がるチャンスも多いでしょう。

システムデザイン・マネジメント研究科2年

身体知・音楽ⅠⅡ

—古楽器を通じた歴史的音楽実践—
—合唱音楽を通じた歴史的音楽実践—



写真提供：(公財)横浜市芸術文化振興財団

音楽を通じて歴史・文化の中の人間の生を体験し、芸術に秘められた人間の生を、文学・歴史・思想等、多角的視点から理論的に見つめ直します。音楽演奏の実践体験によって、身体を通じた歴史・文化・言語の総合的な学習を行います。

器楽・声楽それぞれ歴史的音楽作品の演奏実践を行い、耳と感性知識、身体を結びつけ、それによって身体を媒体として継承される歴史・文化・言語の連関を実際の体験によって学びます。学期末に公開演奏会を行い、学内・地域に開かれたかたちで成果を披露します。

授業の特長

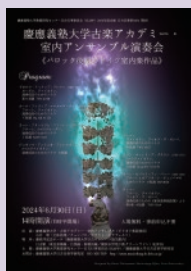
器楽アンサンブルと、声楽アンサンブルの2つの部門に分かれて行われます。

器楽アンサンブル部門

バロック・ヴァイオリンやチェンバロなど、一般的に古楽器と呼ばれているバロック時代の楽器を用いて、17世紀および18世紀の西洋音楽を実践的に学んでいくというのがこの授業の最大の特徴です。

声楽アンサンブル部門

合唱音楽の原点とも言える、ルネッサンスおよびバロック期の合唱音楽を主に取り上げます。これを実践的に探究してだけでなく、学問的な観点からも合唱音楽の本質を考察していきます。音楽の発展の中で、人の声が担った役割は大きく、音楽の歴史に与えた影響は計り知れないところがあることを確認していきます。



授業紹介

器楽アンサンブル部門

バロック・ヴァイオリンやチェンバロの他に、バロック・ヴィオラ、バロック・チェロ、ヴィオラ・ダ・ガンバ、バロック・オーボエ、リコーダー、フラウト・トラヴェルソ、バロック・ファゴットなどの、バロック時代に使われていた楽器を用いて、当時書かれた、トリオソナタなどの室内楽編成のための作品と、より大きめのアンサンブルであるバロック・オーケストラ(20人程度)のために書かれた音楽作品を取り上げ、バロック時代の音楽作品について深く理解していきます。実践を通じ、17・18世紀の作曲家たちが何を演奏者に、そして聴衆に求めていたのかということや、17・18世紀の器楽作品には、どのような音楽的メッセージが込められているのかということなどを、現代ではなく、当時使われていた楽器を用いることで探求していきます。なお、使用ピッチはa=415となります。一年を通じて、2回ほどの成果発表演奏会を、協生館藤原洋記念ホールで行う予定です。

声楽アンサンブル部門

音を記号化し記録するという行為、つまり楽譜の発展は、多声音楽と共に歩んできたと言っても過言ではありません。そのくらい、合唱音楽が音楽の歴史の中で重要な役割を担っていました。ルネッサンスの時代が終わるまでには、4声、5声、6声またはそれ以上の声部のために、複雑な作曲技法が用いられて数多くの声楽作品が書かれました。そのような時代では、芸術性を高めることが神への距離を縮めるとも考えられていました。結果、現代までに残されているルネッサンス期の合唱曲の大半は、宗教音楽の分野に属する作品です。しかしながら、バロックの時代の幕明け頃(1600年前後)には、世俗的な音楽にも宗教作品で培われた、もしくは新たに生まれた作曲技法が用いられるようになっていき、声のための音楽の奥行きが広がっていきます。このような状況を合唱音楽を実践的に取り組むことを通じて、学んでいきます。

慶應義塾大学コレgium・ムジクム文化交流プロジェクト2023
クラシック・ヨコハマ大学連携事業2023
ゲーテ・インスティテュート助成事業

慶應義塾大学古楽アカデミー・オーケストラ・小合唱
ヴェルニゲローデ放送合唱団青年部
合同演奏会
～バッハ《マニフィカト》作曲300年記念プログラム～

2023年は、バッハがライプツィヒの聖トーマス教会のcantorの職務に就任し、ライプツィヒでの大衆音楽活動の拠り所となる《マニフィカト》を書き出した300年になります。これを記念して慶應義塾大学音楽学専攻とドイツから来日するヴェルニゲローデ放送合唱団青年部が合同で、バッハが筆に定めた行った二重部バージョンの《マニフィカト》BWV 243を演奏します。

神戸佑実子(ソプラノ) 高橋幸恵(メゾソプラノ) 田口昌範(テノール) 石本高雅(バス)
ヴェルニゲローデ放送合唱団青年部
慶應義塾大学古楽アカデミー・オーケストラ(ピチオト楽団使用)・小合唱
ロベルト・ゲーストル/石井明(指揮)

Program
ヨハン・ゼバスティアン・バッハ (1685-1750)
《マニフィカト》ニ長調 BWV 243
ミサ曲 ト長調 BWV 236 (抜粋) 他

2023年11月18日(土) 17時開演 (16時30分開場)
入場無料 事前申込不要
藤原洋記念ホール
慶應義塾大学日吉キャンパス 協生館内
東島駅前線・東島駅南口徒歩7分 有明線・日吉駅徒歩1分

主催 慶應義塾大学教養研究センター/クラシック・ヨコハマ推進委員会
慶應義塾大学日吉音楽学研究室
問合せ 慶應義塾大学日吉音楽学研究室 <http://www.musicology.hc.keio.ac.jp/>

2023年度は、ドイツから来日したヴェルニゲローデ放送合唱団青年部と合同演奏会を開催しました

この授業は、日吉音楽学研究室と連携して行っています。
詳しくはホームページ
<http://www.musicology.hc.keio.ac.jp/>をご覧ください。



学生の声(2022年度受講生)

古楽器の演奏を通して音楽観が広がる。

私は小学生でバイオリン、中学生ではフルートを演奏し、高校時代は、ティン・ホイッスルというアイルランド発祥の縦笛を演奏していました。石井先生の「身体知・音楽」は4年生になって履修。初めてバロック・バイオリンに触れたとき、すぐに「違い」を感じ、演奏してみると古楽ならではの奏法や拍の取り方などが新鮮でした。自分自身の音楽観が広がり、今まで以上に演奏することや音楽を鑑賞することを楽しめるようになったと感じています。

文学部4年

難しさの中にやりがいを感じる。

この授業は自分の担当楽器以外にもさまざまな珍しい古楽器と接することができ、また幅広い年齢層の方々と演奏する機会でもあり毎回楽しみです。現在のオーボエは金属製のキーを押さえて演奏しますが、バロック・オーボエはリコーダーと同じく自分の指でしっかりと穴を押さえずには良い音は出ません。それが難しさでもあり、演奏しがいを感じる点でもあります。この授業を通して音楽を一生の趣味にする気持ちがますます強くなりました。

薬学部4年

慶應義塾発行「塾」2022 SUMMER(No.315)より引用

日吉学

探求編



日吉キャンパスには広大かつ豊かな自然や歴史環境があります。縄文、弥生、古墳時代の遺跡や1200種を超える生物や植物が生息する森、アジア太平洋戦争末期の帝国海軍の秘密基地や建築史上重要な建造物。福澤先生は『学問のすゝめ』で、「事物の観察」が学問の第一歩と語っています。「日吉学」では観察とフィールドワークを介して体感し、単なる知識の蓄積にとどまらず、生きた知へ発展させることをめざしています。これからの社会には、文系理系にとらわれず多面的視点から生み出される創造的な発想が求められるでしょう。つい見過ごしがちな身近なことから現在の我々を取り巻く問題とのつながりに触れることで、広い視野と深い洞察力の重要性に気づき、グループで課題に取り組むことで、問題の発見・解決における個人の主体性と他者との対話・協働の大切さを学びます。



コーエーの襟川陽一社長から盾を授与された受賞者

授業の特長

慶應義塾唯一の授業 慶應のお宝に触れ学びます。

多彩な講師陣と幅広い受講者が魅力

対象は慶應義塾に在籍する高校生(オブザーバー)から大学院生まで。年齢の異なる参加者が混在するグループワークで、多様な発想からの刺激、異なる意見の調整方法を学ぶことができます。

多様な「熱い」学びのかたち

講義とフィールドワーク・体験と討論。最終プレゼンテーション等では予行演習で教員の指導、本番では学生と教員による熱い合評会。各自レポートの書き方も学べます。

日吉学修了証がもらえる
公開発表会も予定されています。



授業紹介

こんな授業があったのか！
キャンパスを通して自分たちの過去・現在・未来を考える。

みなさんは、ふだん何気なく過ごしている日吉キャンパスがどんなところか、改めて考えてみたことはありませんか。ちょっと気にして目を向けると、いろいろな発見があるはずです。キャンパスを散歩してみてください。意外と複雑な地形のうえにあることに気づくと思います。そこにはさまざまな動植物も生息しています。また、キャンパスには、台地を構成する地層が見えているところや、弥生時代の巨大な集落の痕跡など、地中の様子を垣間見ることのできる場がそこかしこに存在するほか、地下深くにはアジア太平洋戦争期の巨大な地下壕が構築されています。授業を受けている校舎だって、それぞれの特徴に目を向ければ、そこからキャンパスの歩みが見えてきます。2025年度の日吉学は「探求編」です。皆さんがまだ気づいていない、キャンパスのさまざまな特徴を見つけ出し、その成り立ちを探ることを通して、多様な視点から日吉の過去・現在・未来について語り合いたいと思います。前半の7回で課題発見のための学習とフィールドワークを行い、後半7回で各自が発見した課題を解決するための資料・情報の収集や整理、理解を深めるための議論を行います。最後に各自、プレゼンテーション等を行い、それを踏まえてレポートにまとめて提出してもらいます。



2025年度 講師紹介

■ 安藤広道 (文学部教授)

縄文から戦争遺跡まで幅広く専門とする
慶應のインディアナ・ジョーンズ? 考古学者。

■ 都倉武之 (福澤研究センター准教授)

慶應義塾のことなら何でもお尋ねあれ、
即座に! 詳しく! 解説可能な歴史学者。

■ 有川智己 (経済学部教授)

日吉の広大な森の地面を見つめる不思議な人、
実は昔の系統分類が専門の生物学者。

■ 大出敦 (法学部教授)

アカデミック・スキルズ教育のプロ。
本当はボール・クローアルが専門の仏文学者。

■ 阿久澤武史 (高等学校教諭)

日吉台地下壕保存の会の会長にして
日吉の建築探偵・塾高の校舎をこよなく愛する国語の先生。

■ 杵島正洋 (高等学校教諭)

ハレー彗星に魅惑され天文学者になるはずが、地学学者に。
地形や地層や岩石のわずかな痕跡から、過去の出来事を読み取る名探偵。

■ 高橋傑 (高等学校教諭)

慶應高校の先生にして、中世日吉の百科全書。

■ 不破有理 (名誉教授・教養研究センター非常勤講師)

日吉のマドンナ。なぜかアーサー王伝説が専門の英文学者。

■ 縣由衣子 (教養研究センター非常勤講師)

反転学習のプロフェッショナル。ミシェル・セールの専門家。

敬称略。所属・職位は2025年1月現在

【授業の形式】春学期・火曜5限 知識と体験を自由な発想で味付けをして、熱く冷静に考察する、ユニークな授業



学生の声(2023年度受講生)

多くの学びを得られる授業。

私は日吉学を受講したおかげで、今通っている日吉という場所の地理的性質、歴史等がわかってキャンパスにも愛着が湧くようになりました。多分野の先生方のお話を一通りに聞け、実際に自分の目で見て感じて学べる上に論文もしっかり書けるようになるので、特に1年生には受講をおすすめしたいです。

商学部1年

半年間、私は日吉と一体化した。

私は、本授業を通して日吉を「食べた」。つまり、自分の中に、日吉を取り込むことができました。見て、聞いて、歩いて、調べて、学んで…。五感を使って、日吉という場所が持つ文化、歴史、地理的特徴について知り、自分のテーマに沿って研究をしたことで、自分と日吉の境界線が曖昧になり、一体化したように感じます。この感覚を味わうことができるのは、世界でこの場所しかありません。あなたも、日吉を味わってみませんか?

法学部3年

まだ知らない日吉の一面が見られる授業。

日吉学で学ぶキャンパス周辺の歴史や自然は、どれもかけがえのない、そして大変興味深いものですが、自分たちの身近にあるものなのに、普段は見落としてしまいがちです。しかし、それを知らなくて日吉での学生生活を終わってしまうのは本当に勿体無いと感じました。せっかく日吉で学んでいるのなら、ぜひ受講して欲しいです!

法学部2年

慶應義塾でしかできない経験。

普段なかなか関わる機会のない他学年の学生や塾高生、そして日吉のプロフェッショナルともいえる教授とのフィールドワークを通じて、自分の視野が大きく広がりました。また、大学生活の中の半分を日吉キャンパスで学ぶのには意味がありました。日吉学で得た知識によって慶應義塾への愛がずっと深まるはずです!

文学部1年

ゲーム学

——— ヴィデオゲームについて学ぶ、考える ———



2024年11月5日(火)ローベル、ロラン氏(慶應義塾大学 商学部非常勤講師)

みなさんのなかにも平素、コンピュータゲーム、ビデオゲーム、ゲームアプリに親しんでいる人は多いでしょう。それは遊びや息抜きの時間かもしれませんが、巨視的なスケールで見ればゲームは今日、多くの産業、文化、技術分野において中心的な位置を占め、また、さまざまな問題を提起しています。たとえば桁外れのエンターテインメント市場と化した中国と日本のIP(知的財産)の関係。仮想現実技術などの高度なテクノロジーがいかに最新ゲームに応用されているか。あるいはゲーム依存が社会問題化する一方、物語の伝播媒体として、これまで本や映画が担っていた役割を今ではゲームが果たしているともいえます。ではそうした旧来のメディアとゲームとの違いはなんでしょう？ つまりゲームには学問をする余地があります。普段は遊び、消費するだけのゲームかもしれませんが、そこから一歩踏みこみ、ゲームの周辺で現在起こっていることを知り、ゲームの諸問題についてアカデミックな考察をしてみませんか？

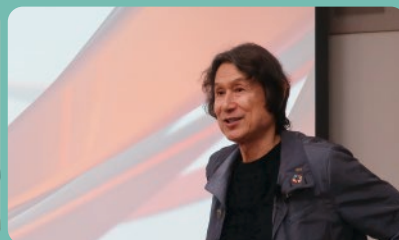
授業の様子



ローベル、ロラン氏



日中エンタメプロデューサー 大里雄二氏



株式会社コーエーテクモホールディングス 横川一代表取締役社長
(ゼネラルプロデューサー シブサワ・コウ)

授業の特長

ビデオゲームをアカデミックに考察する

ビデオゲームが提起する諸問題についてアカデミックな立場から考察をおこないます。個々のタイトルについてのゲーム批評とは異なり、学際的な立場からゲームの現状や、ゲームとはなにかを考えるためのヒントを提供します。

授業紹介

ビデオゲームが提起する諸問題について、アカデミックな立場から考察をおこないます。

ビデオゲームをめぐる多岐にわたるテーマを、産業、文化、技術といった分野の専門家とともに学びます。慶應義塾教員、他大教員に加え、ゲーム業界の最前線にいる方にも講師として登壇していただきます。講義のあとに質疑応答をおこない、履修者にはリアクションペーパーの提出が課されます。授業はすべて対面でおこない、出席とリアクションペーパーの充実度で評点をつけます。



「ゲーム学」(2024年度実施例)

■ 脳の学習機構とゲーミフィケーション
牛場潤一(慶應義塾大学 理工学部 教授)

■ コミュニケーションを拡張するインターパス技術とバーチャルエコノミーの拡大
大隈隆史(産業技術総合研究所 人間拡張研究センター 研究チーム長)

■ 中国巨大市場への挑戦
大里雄二(日中エンタメプロデューサー)

■ ゲームとヒューマンエージェントインタラクション
大澤博隆(慶應義塾大学 理工学部 准教授)

■ 日本のゲーム産業の市場構造
小山友介(芝浦工業大学 システム理工学部 教授)

■ デジタルゲームに見る着せ替え人形的表現
堺文男(尚美学園大学 総合政策学部 非常勤講師)

■ 社会課題解決・コミュニケーション技法としてのシリアスゲーム活用
標葉靖子(実践女子大学 人間社会学部 准教授)

■ CG制作のご紹介
野末武志(株式会社スクウェア・エニックス 執行役員)

■ ゲーム依存について
藤田博史(医療法人ユーロクリニック理事長・狭山メンタルクリニック院長)

■ リモート社会におけるゲームの新しい役割と可能性
宮本道人(北海道大学 CoSTEP 特任助教)

■ デジタルゲームの感性学
吉田寛(東京大学 文学部 教授)

■ フランスにおけるビデオゲーム
ローベル、ロラン(慶應義塾大学 商学部 非常勤講師)

2025年度 コーディネーター
新島 進(慶應義塾大学 経済学部 教授)
敬称略。所属・職位は2025年1月現在

学生の声(2022・2023年度受講生)

ゲームを取り巻く様々な環境を、理解することができました。

私はゲーム学という学問自体あまり知らず、ゲームについての興味本意で履修したため、当初は優秀なゲームを鑑賞する授業だと考えていました。しかし履修してみると、ビデオゲーム自体ではなく、ゲームを取り巻く環境に関する授業でした。製作者側のお話はもちろん、中国やフランスなどの海外のゲーム市場、新しいゲーム形式やゲームに取り入れられる新しい技術、逆にゲーム手法を新しい技術に取り入れる事例など、ゲーム自体に対する知識(制作過程、面白くするコツなど)、よりゲームを取り巻く環境を色々知ることができたと思います。また、講義にいらっしゃる講師の方々が様々な領域で活躍しているというもあり、ビデオゲームに限らず世界は自分が思っていたより広く、さまざまなことに取り組んでいる人がいるということを知るきっかけにもなりました。この授業を履修するにあたって、メジャーな企業やタイトルを押さえておく程度のゲームに対する理解があった方が授業内の事例を直感的に感じることができるので、オタク文化を空気がして理解しているほうが好ましいとは思いますが、無くても特に問題はないと思います。本当に楽しい授業なのでぜひ皆さん履修してみてください。

環境情報学部3年

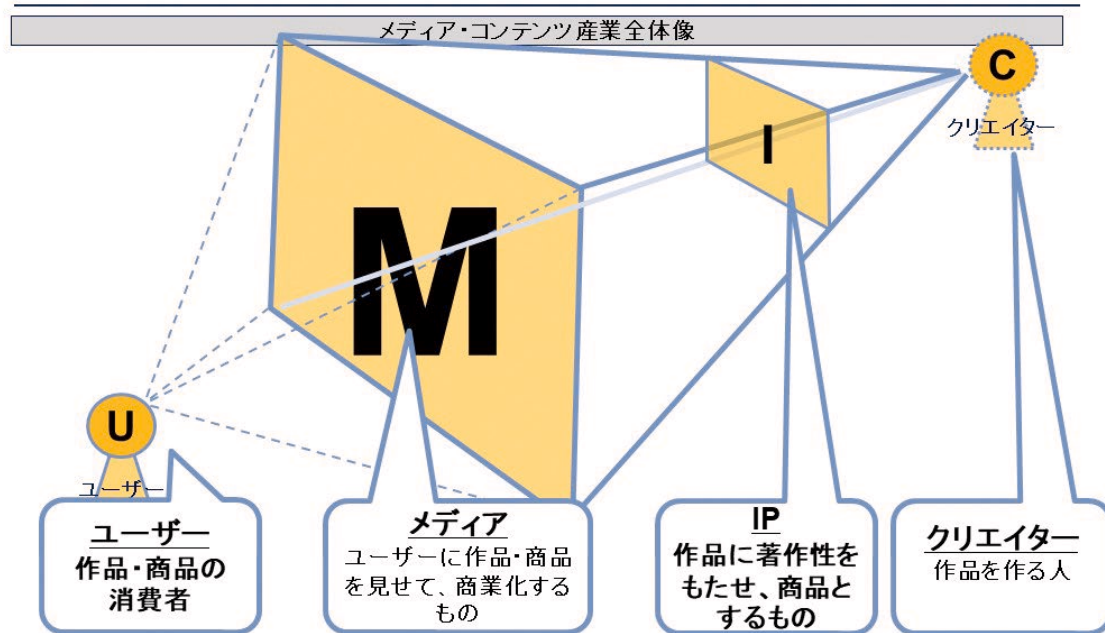
ゲームに対する造詣を深めるだけでなく、商業展開や他国との繋がりを実感しました。

ゲーム学の講義では、単純にゲームそれ自体に対する造詣を深めるだけでなく、ゲームを軸として商業展開や他国、特に中国との繋がりを実感しました。国によってゲームに何を求めるのか、国ごとの文化の特性も分かり、今後、ゲームに関わる仕事をしたいと思っていなくても、ゲームを作る国自体に興味を持つことができると思います。また、ゲームの進化の過程で、AIや脳波を組み合わせて、一口にゲームと言っても、私たちが日常的に遊ぶものだけでなく、医療やスポーツとしても成立していった、または、していく過程を学ぶことができます。授業内においては、単純に講義を聞くだけでなく、脳波とゲームを組み合わせた回では、希望者は装置を使って、自身の脳波を測定し、ストレス、喜びなど様々な項目を調べることができました。日吉キャンパスの先生以外にも、三田や湘南藤沢、他大学の先生や、様々な分野に精通している方々の話を聞けるのもこの講義の魅力だと思います。

経済学部1年

エンターテインメントビジネス論

コンテンツ・IP・メディア産業



アニメやゲームを始めとしたエンターテインメントビジネスは、法学・経済学・商学・文学・理工学等多くの学問を横断する学際的な講座です。

エンターテインメントビジネス関連分野の第一線の研究者による講義のみならず、エンターテインメントビジネスの最前線で活躍する数多くの実務家によるゲスト講義も行われます。そのため、エンターテインメントビジネス、特にアニメやゲームに係るIPの開発・展開に関する方法論を体系的に学ぶことができます。講義は、理論と実務を往復しながら展開され、エンターテインメントビジネスについて、理論的・批判的な思考を身に着けられます。加えて、具体的な実務の現場で、それがどのように展開しているのか「地に足の着いた」観点も学ぶことができます。



授業の特長

学問横断的かつ産業横断的であり、さらに国際的な講義を提供します

エンターテインメントビジネス(アニメやゲームに係るIPの開発・展開)を共通項として、特定の学問・産業分野に限定することなく、学問横断的(経営学/社会学/文化人類学/文学/映画論etc.)かつ産業横断的(ゲーム/アニメ/マンガ/マーチャントディングetc.)であり、国際的(日本/米国/欧州/中国etc.)な講義を展開します。

授業紹介

エンターテインメントビジネスについて、理論と実務の双方から学際的・分野横断的にアプローチします。

国・地域的な多様性を確保し、エンターテインメントビジネス関連分野の第一線の研究者による講義、かつ、エンターテインメントビジネスの最前線で活躍する実務家からも数多くのゲスト講義が展開されます。

法学・経済学・商学・人文学・理工学など様々な分野に跨るエンターテインメントビジネスの広がりとその可能性について、主にアニメやゲームに係るIPの作り方に焦点を当てつつ学びます。

アニメやゲームなどが好きで業界の構造に興味を持っている、卒業後はエンターテインメント業界で働きたいと思っているみなさんに必見の講座です。



2025年度「エンターテインメントビジネス論」

講師

中山 淳雄 (株)Re entertainment代表取締役社長、慶應義塾大学教養研究センター非常勤講師
 主著:『エンタメビジネス全史 「IP先進国ニッポン」の誕生と構造』(日経BP、2023年)
 『エンタの巨匠 世界に先駆けた伝説のプロデューサーたち』(日経BP、2023年)
 『推しエコノミー 「仮想一等地」が変えるエンタメの未来』(日経BP、2021年)

コーディネーター

三原龍太郎 慶應義塾大学 経済学部 准教授

授業タイトル(予定)

■ 第1回 エンタメビジネス全体像	■ 第8回 玩具・MDがもたらす経済
■ 第2回 ショートアニメの世界	■ 第9回 キャラクター・メディアミックス論-1
■ 第3回 ショートドラマの世界	■ 第10回 キャラクター・メディアミックス論-2
■ 第4回 Webtoonの世界	■ 第11回 中国アニメの現状と展望
■ 第5回 ロケーションベースエンタメ新時代	■ 第12回 日本アニメのアジア展開
■ 第6回 AIがもたらすエンタメの進化	■ 第13回 近年の中国語圏映画製作と興行
■ 第7回 世界アニメファンは今何に沸いているのか	■ 第14回 テスト、サマリー

敬称略。所属・職位は2025年1月現在
 ※講師・内容・順番は変更となる可能性があります。

学生の声(2023年度受講生)

エンタメの世界がどんな仕組み、どんな数字、どんな歴史に基づいて動いているのかを学び、深めていく道具も得られます。

この講義では、一口にエンターテインメントといっても、独力で把握するにはあまりに広大なその領域を、手際よく概観することができます。かねてからマンガ、アニメ、ゲーム、スポーツ、映画、音楽といったエンタメに親しむ学生はとて多く、私もそのひとりです。けれども、日常的にエンタメを享受しながら、それがどのように手元に届いているのか考えることは意外に少なく思えます。そのためエンタメに対する理解も漠然としていて、「エンタメが好き」と言いつつも、「なんとなく」と付け足してしまふ、というひともいるのではないのでしょうか。もちろん、好きという気持ちはそれだけで十分に違いありません。しかし、なんとなくとはいえ、時に持て余してしまうほどの好きを、より具体的なものに変えたいと考えている。つまり、エンタメの世界がどんな仕組み、どんな数字、どんな歴史に基づいて動いているのかを知りたいと考えている。そんなひとは、この講義や対談からそれを学び、さらに深めていくための道具も得られるはずです。

経済学部2年

金融リテラシー入門



お金のことを学んでみませんか。人間万事金の世の中。明治の初めの歌舞伎のタイトルです。福澤諭吉先生が慶應義塾を学校として軌道に乗せようと奮闘していた頃、世の中ではそんな芝居が流行っていました。福澤先生の学問もメインは経済学だったと言えます。国家も組織も家族も個人も、それぞれの財布を十全に使いこなさなければならない。一身が独立するとはお金の心配がなくなってこそなのだ。福澤先生は口を酸っぱくして塾生に教えていたのです。それから百何十年。世界は万事、ますます金の世の中！ お金のことを知らねばなりません。大学でもっと教えなくては！ その道のエキスパートに習おう。お待ちしております！



授業の特長

多彩な金融分野を専門とした講師によって、人生設計に必要な不可欠な金融リテラシー向上のための講義が行われます。

金融商品・トラブル、資産形成といった具体的で役立つ知識のほか、その社会的背景をも学ぶことができます。「職業・企業選択」「資産形成・資産運用の知識」「金融トラブル回避」など、それぞれ専門家が登壇します。金融商品や資産運用に必要な知識を身に付けるだけでなく、その社会的背景を学び、日々複雑化する経済社会を理解することで、人生を主体的に取り組む姿勢を学びます。

授業紹介

「人生100年時代」の到来に備え、多様な人生設計に資する金融リテラシー向上をめざします。

個人を取り巻く環境やこれからの生き方は、従来の「勉強・就職・老後」という人生のかたちは過去のものとなり、学び直しや、転職など、様々な選択肢が生じています。それに伴い、人生設計はますます多様性を増しています。

とはいえ、「先立つものはお金」という世の中の基本は変わっていません。金融資本主義のひたすら徹底してゆくこの時代において、この言葉の有効性は、ますます高まっていくでしょう。堅実に働いても予期せぬ危機に見舞われることもありますし、投資を試みるとなればリスクの度合いも上がります。そういうことを早めに心得ておく。そのための授業です。

2025年度「金融リテラシー入門」

- コーディネーター**
- 片山 杜秀 教養研究センター所長／法学部 教授
 - 寺沢 和洋 教養研究センター副所長／医学部 助教
 - 小林 健一 2025年度 教養研究センター非常勤講師(予定)／株式会社小林経済研究所代表取締役

授業内容(予定)	
■ 第1回 20歳の現状把握、金融リテラシーの本質、本講座の取説	■ 第8回 不動産登記簿簿本(登記)の読み解き方
■ 第2回 財務諸表の読み方、業種による色、企業研究へのヒント	■ 第9回 生保・損保(社会・介護・失業保険)
■ 第3回 税金(所得税・相続税・贈与税)、確定申告	■ 第10回 トラブルと解決策
■ 第4回 金融・経済・市況・世界情勢・新聞の読み方	■ 第11回 FPによる解説・お金の悩み・実例・解決法(各状況・各世代)
■ 第5回 金融資産について(株、債券、外貨、暗号通貨、保険、商品券)	■ 第12回 企業IR、組織の金融リテラシー(M&A)模擬株主総会・企業研究、融資・審査
■ 第6回 株式(市場)について、先物、オプション、ETFなど	■ 第13回 副業・起業・特許
■ 第7回 現物資産について(不動産、他)	■ 第14回 レポート・興味のある(上場)企業についての調査・研究

敬称略。所属・職位は2025年1月現在
※講師・内容・順番は変更となる可能性があります。

学生の声(2024年度実験授業受講生)

人生の必修科目、金融リテラシー。

金融リテラシーは人生を通して役に立つと感じました。金融リテラシーとはお金に関する知識や判断力のことであり、普段私たちがお金を使って生活している限り必要不可欠なものです。日本人の長寿化に伴い、老後の資金を蓄えるために金融資金を活用する必要があり、金融リテラシーの必要性はますます高くなっています。日本人は現金預金率が55%である一方で、資産の多くを投資にまわしているアメリカやイギリスに比べて資金の伸び率が低いということがとても印象的でした。投資はリスクがつきまいますが、金融リテラシーを学ぶことでリスクを抑えることが可能です。また、講義では株価の変動要因から銘柄の選び方など具体的な点にも言及しており、この講義を受講しようとした理由が投資への興味だった私にとって全体的にとっても満足のいく講義でした。

経済学部1年

「一生物の知識」を得ることができる授業。

「人生設計やお金の管理について興味はあっても、何をしたらいいかわからない」「金融に関する勉強をしたいけど、どこから手を付けたら良いのだろう」金融リテラシー入門はこのように考えている学生にぴったりの授業であるといえます。普段、金融についてのアドバイスを行っているプロの方々から、大学の授業という形式で金融について学べる機会は大変貴重です。また、大学生である今だからこそ、金融リテラシーを身につけておくことで、将来待ち受ける様々なライフイベントに備えることができます。正に、「一生物の知識」を得ることのできる魅力的な授業だと思えます。

経済学部2年



Information

● 庄内セミナー 『庄内に学ぶ「生命」』

<https://lib-arts.hc.keio.ac.jp/shonai/>



慶應義塾大学鶴岡タウンキャンパス(TTCK)がある山形県鶴岡市を拠点にして開催している、生命をテーマにした教養セミナーです。対話と議論を中心に据えつつ、専門家や地元の方々のお話と体験・体感型プログラムを組み合わせた4日間、自然豊かな庄内の地で学部生・大学院生等と一緒に精一杯「生命」について考え、語り、体感します。修験体験、先端生命科学研究所ラボ見学、論議の素読体験など、過去・現在・未来が体の中を突き抜ける「学び」の場に立ち会ってください。(実施方法につきましては慎重に検討し、周知いたします。)

● 情報の教養学 2024年度講演

<https://lib-arts.hc.keio.ac.jp/education/information/>



情報に関わる技術は年々進化しています。しかし、それが世間一般に広く浸透するためには、何らかのきっかけが必要になることが多いです。例えば、新型コロナウイルス感染症がきっかけで、オンライン会議システムが広く使われるようになりました。「情報」は技術だけではなく、様々な事柄が相互作用し、その成否につながります。また、本来良いと思われることであっても、利用者の使いかた次第では悪い結果になりかねません。このようなことを理解するために、2025年度の「情報の教養学」は、情報に関わる様々な話題を一流の講師に講演いただきます。

● 実験授業(予定)

エンターテインメント
ビジネス特論

20年に一度の転換期を迎えていると言われて
いるアニメビジネスに特に焦点を当て、そのク
レイション、プロデュース、テクノロジー、ファイ
ナンス、国際化等の現状と展望を深堀りします。

想像学とSF学

SF的な想像力、物語には社会をよりよく理解
し、改善する力があります。本講座ではSF文
学の想像力、AIを活用した創作、SFプロト
タイミングといった実践について学びます。

● 学習相談

アカデミック・スキルの修了生を中心とした学生相談員が、学習に
関するさまざまな相談を受け付けています。お気軽にどうぞ!

期間: 学期中の平日 (Webサイト参照)
場所: 日吉図書館1Fスタディサポート

https://libguides.lib.keio.ac.jp/hys_studyadvic



学習相談の様子

2024年度読書会ポスター

● 読書会「晴読雨読」

学生も教員も対等に語り合う読書会を開催しています。

『アイデアの系譜学』

2024年4月~2025年3月 (講師)若澤佑典(文学部助教)

● アカデミック・スキルズ -10分講義ビデオ-

アカデミック・スキルズでは、自分で問題を発見し、調べ、発信する力を1年にわたって実践的に習得します。その心得を誰でも学べるよう、センター所員がテーマを設けて約10分語るビデオ講義を制作しました。

- 「科学史」 見上公一(理工学部准教授)
- 「映画は読むことができるのか?」 佐藤元状(法学部教授)
- 「サブカルチャー研究」 新島進(経済学部教授)
- 「ロシア語について」 越野剛(文学部准教授)

その他20本以上

※詳細はポスター、web等でご確認ください。 <https://lib-arts.hc.keio.ac.jp/>
※所属・職位は講義、イベント等開催当時のものです。

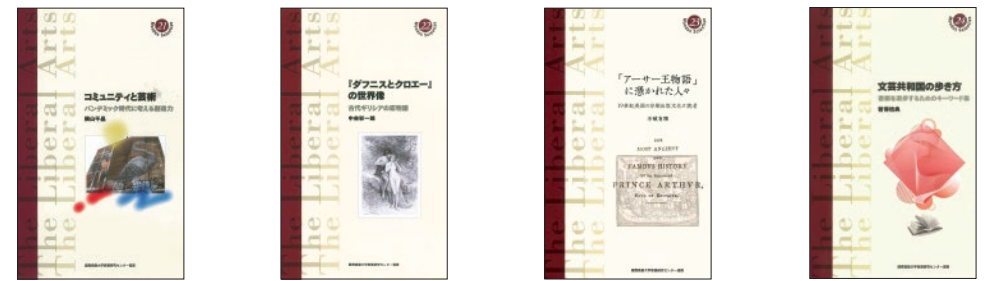
Publications

教養研究センターで行われている研究・教育・交流活動は、各種刊行物やウェブサイトにて発信しています。



● 教養研究センター選書

教養研究センター所員が独創的な論考を平易なスタイルで紹介する、個性ある魅力的なシリーズです。諸国の文学、言語、哲学、芸術表現、社会学など、様々な学部に所属する所員の多様な関心を反映して、多彩なテーマで刊行されています。



コミュニティと芸術
—パンドミック時代に考える創造力
横山千晶 2021年

『ダフニスとクロエー』の世界像
—古代ギリシアの恋物語
中谷彩一郎 2022年

『アーサー王物語』に憑かれた人々
—19世紀英国の印刷出版文化と読者
不破有理 2023年

文芸共和国の歩き方
—書棚を遊歩するためのキーワード集
若澤佑典 2024年

〈選書刊行記念企画〉「著書と読む教養研究センター選書」

「著書と読む教養研究センター選書」は「教養研究センター選書」をより広く知ってもらうことを
目的とした企画です。

2023年度 「アーサー王物語」に憑かれた人々 - 19世紀英国の印刷出版文化と読者(不破有理)
2023年11月30日開催



● 刊行物

「生命の教養学」の授業をまと
めた「生命の教養学」講義記録
の他、教養研究センター監修の
書籍も刊行しています。



『記憶』生命の教養学
2022年度 講義記録

『贈与』生命の教養学
2023年度 講義記録

『死と再生』生命の教養学
2024年度 講義記録

● 学生論文集

「アカデミック・スキルズ」で執筆された
学生論文は、2005年
以降年度毎に、一冊
の本にまとめられ、
「アカデミック・スキルズ
学生論文集」と
して刊行しています。



2019年度

2020年度

2022年度

2023年度

教養研究センターの科目を調べるには…

シラバスは「K-LMS(学修支援システム)」から利用できます。
keio.jp にログイン後、Application から「授業」→「K-LMS」を選択。

<https://gslbs.keio.jp/syllabus/search>

慶應義塾大学 シラバス・時間割

学部・キーワードから探す K-Numberから探す

年度 2025

学期 すべて 春学期 秋学期 学期前半・後半すべて

キャンパス すべて

学部・研究科 すべて

学部・専攻

学年

科目名

担当者名

キーワード

▼細かい条件を指定する

[修士] 大学院共通
言語文化研究所
メディア・コミュニケーション研究所
斯道文庫
体育研究所
福澤研究センター
[修士] 福澤研究センター
国際センター
[修士] 国際センター
保健管理センター
教職課程センター
日本語・日本文化教育センター
アート・センター
[修士] アート・センター
外国語教育研究センター
教養研究センター
G I Cセンター
学生総合センター
グローバルリサーチインスティテュート
ミュージアム・commons

検索

シラバス検索画面の「学部・研究科」からプルダウンで学部/研究科名よりずっと下の方にある「教養研究センター」を選択して検索！

※単位の認定は学部によって異なります。所属する学部の履修案内を確認してください。

